



病家須知卷之四

婦人持病の心得と説

凡婦人女子の宿痼（ジビヤウ）といふもの、起原（オコリ）を性質（ウマレウキニタラ）柔順（ニヤウ）をらば、く
猜疑（ウタガヒ）ふるく。人を怨世（ウラミヨ）と尤（カコナ）心情（ココロサマ）の偏僻（ヒガミ）たるより發（オコル）ものか、
そとといふ小といふは。婦人（メノ）は十（トウ）八（ハチ）九（ク）を偏心（ヒョウシン）愚癡（グチ）あるもの
小く。このく小挂念（モノオモヒマニルヒマ）間斷（マダマダ）なく。悒悶（ウツマン）病とあること多（オホシ）けさへ
す。男子（ヲシ）より喜（ヨロコビ）怒（イカリ）哀（アハレ）樂（タカラシ）の情感（ジヤウカン）ト易（ヤスク）た。目前（メノマヘ）のことの之（コレ）を執（シツ）
く。遠識（トホシ）あさる。婦女（メノナ）の常態（モナマヘ）あさる。いふ小才氣（サイカキ）あるとも。男子（ヲシ）の
思慮（オモエ）小ら。いふぐり及（オキ）べさ。自反（オキラメ）く。一切（サイ）の心畫（クワダクゴト）意匠（オモヒスツ）を掃盡（コロヨリハラヒステ）
く。詮（セン）あさること小思（ミロ）を費（カケ）む。舅姑（レウコト）の已（オレ）小阻（ツク）も。夫（ウツト）の吾（ワレ）小歎（ウレキ）も。皆定（モナマヘ）

とる因縁インエンどと明ミめく。何ナニごととも介意コロニシヤクむ。中饋アサナフの事業ワザ墜棄オコタラぐ。慈ジ恤ヒを旨ヒと一切モノゾト遜順ナダラカ。失行シキヤクふカく。漸シダシ小心コノコナナシヤカ裏寛ウラニヒヤカ平ヘイ小コあり。いいののあるる艱困ナンギ小遭アツことありくも。ととをを苦クとかもふ心ココロも發オコラむ。鬱悒キムスボル、ヤマヒ為病イフと云イフことあるべらば。然シカレバ病苦ビヤウキの去イユルののををらむ。憎ウラキもややののく愛疎アイシキも自親オノカシキく。後榮ウラスエサカエと期身マツミとありぬべし。故ユエ小婦フツメ人の攝養ヤウレヤウとく外ホカ小託タムべきこともある。たたバ心意ココロの收攝ウサマリと身體コトモナの怠慢オコタリと誠イマシメんこととああと切要カンユウをを世セ小宿痾ビビヤクモナとくとさせることとらむ。ああけけととも平素心意フツニココロの放遣ハレヤルヒマををく。或アルヒは疝瘕シヤクキ小困迫クルレメららと。いいのの小コままれれどども治ぬナホラと云イフ類ルイも且予ナラシクヨの教ヲシ小從レタヒて。灸藥キウクスリと託タシとせむ。專婦モウダフツメの四德ヨウトクといふ。和順貞固ワニヤク、サカス、タシク、マシムとの道ミチと。己ミナが持藥ヒツヤクと存心ココロケ婦德フツメノトク婦言フツメノコト婦フツメ

容婦功ヨウフクウの四車ヨウシヤと導引ドウインと常ツネニ小思オモフく力行リキョウをを。疏懶シュランの癖クセも自然シゼン小歇鬱敗ヤミ、ヒナメ、マコ、モイ之意イもいついつの轉ウセく。氣血カラダの循環メダリよく。子藏病瘕疝チノミヤ、シヤク、レヤクの類ルイも。大槩オホカテと鑿イシヤの療術レウジュツと待小及マツ、オヨバびびく治イユべきをあり。ああくくとと初ハジメのああひひどど難堪タイギあるやうとも。決ケツくく為得ナレユたたことと小コああららどど。必奮發カナシクツトメハケキ試シロムべべし。ここは婦人攝生フツメノヤウレヤウの大本モトあり。懷妊クワイニンのここ、ろえろえととく。凡天地の間アヒタ小生シヤウあるもの、子コを産ウマざるとああけけととも。人ヒト小コ難産ナンザンといふことありく。之コレが為小命イナチと隕オトスこととの多オホキいいののあることとどどや。禽獸トリノカモノも孕ハラムことありくも。自然シゼン小委マカセくくさらら小裁意チヘンイと交マシこととある。己ミナの身ミの飛動アツカヒ小閑イトマああけけととも。體カラダの運化コナレもよく。臨産サンノトキい

あゝあらんと沈思もあらねば。氣の抑鬱もあらず。故小産甚易し。
人もまゝ如此。懐妊の初より自然の條理小從く。我意を加こと
なく。臨産もあらんのかくあらんのと。同心費思ことなく。
唯人倫道小背ことあらずと攝養とせむ。數孕するとも穩と産
て。其兒もまゝ強健あり。然と人小の之艱産多し。皆攝生修身あ
りく自爲孽小く。己心のら吾身を害ものありと知べし。自然の
條理小從といふも。いふも其心と和平小して懊惱すること
なく。欲を省慮と寡し。假令有身とも。居恒の動作裁縫蓄御の職
身の級小從く。毫も怠ことあらずべし。農婦のたゞ挿秧耘草を
どの前へ屈こととのを廢し。貴人も朝夕小己が爲べき

業あらずとも。強て園中あざ閑歩然べし。舉止をありて。必く逸惰
あることあらず。或ち常小昔の聖賢君子の書あざ讀せし。聽こ
こと旨といたまふべし。茗燕十炷香線管の戲伎も。臨時ては爲
たまふも可。耽く行も好し。のらば懐妊の中風小冒ん寒をや感
たまはん。障屏設置。衣衾襲小被まおらせし。だゝ氣の抑鬱こ
このをあざむ。腸胃の傳輸も自遲慢胸腹支痞たまふこと。聞こひ
こしく喧嚷。漫木黄芩地黄等の泥滯やを薬物を安胎主劑と
謬執させる疾あざ小も。妊娠の保攝と進まおらざるの類。悉
妨害とあらぬことあり。豪商大賈もこも小準し。保養過宜の
失の自然小背ことあらず。産の害とあらずもの多。樵婦田姫

あどち。且夕の營爲小隙をけきハ。逸居べきやうもあく。副急た
る病ある小非ハ。藥を用る痛苦も知也。故小産前後の障害も少
素より貴賤貧福其常を異小。衣食坐臥小との別ある事非也
貴も人も賤もまゝ同ト人あり。體小何等の差別ある事。然
ハさせる病もあさ小。何の保護の藥あらんや。惡阻ありとも。月
日を経るハ自然小止もの小。強ク鑿療を加る小も及也。況藥
の之を據て産の易んことを望も。大ある左計小非や。然んよ
至ハ飲食を節シ。體の運化を第一の用意とし。身孕ありと知
の後。男女の交を嚴制夫婦尊を同じて臥をあるべし。是自
然の道理あるハあり。この持戒ありけとハ。胎位ハ漸小軟斜小

あり。胸痞。咳嗽もあり。腰脚痠急。疼を知劇とさる起こと能
也。或る痔疾脱肛さるもあり。小便通利ありくあり。腰脚浮腫
て苦悶もあり。腹痛下血もあり。産小臨ても胎兒の位置正ら
れハ。順小婉ること能也。難産と爲甚さハ命を斷ことある小
たる也。胎毒もまゝ之の爲小熾小あり。生来多病あり。天闕を
稟し。胎毒もまゝ之の爲小熾小あり。生来多病あり。天闕を
るの憂ある也。不然ハ其兒蠢愚貪婪あり。不孝の子とあらんこ
とも必然あるべし。世間小難産をるものを見る小。十の八九は
其夫妻多慾あり。慎あり人小か。故小古昔も胎教と云。胎
内より子を教といふも至理あり。今其胎教の大旨を略し。こ

こ小説ていへば。凡く懐妊クワイニ一くより。其母益身ソノハハを慎ツレ寝イ側スルに。坐スル小邊カクヨラを立タツ小蹕ワケシを。邪味割ツキマシモノの正タカシあらぬものも食クハむ。席セキの正タカシあらぬところ小坐オウむ。目メ小邪色ヨカラスモノを視ミむ。耳ミミ小滴聲タシケルを聽キカむ。夜ヨルも必端坐オホキして聖賢ムカシヒトの道ミチを述ノスたる書シヤクを讀ヨクし。めく之コレを聽キ身ミを懦弱ダビヤならしめば。妄小喜ヨヨバむ怒イカラむ哀アハレむ憂ウレヒむ高小陟タカキむ遠トホキ小奔ユカむ何ナニも正タカシあらぬこと毫イナカも耳ミミ目メ小觸フレ心ココロ志シ小發オモフことありといへ。況マレく飲食男女ノミクヒの慾ヨクモリニサシ戯劇遊アソビの念ネロをいゝり起オコすことあるべし。かの色イロハ産前後サンゼンゴの疾苦ヤマヒも知チむ。其生子ソノタレも形容端正カタチミチカサ一く才德サイタクの世ヨ小過スヒたる人ヒトとあるといふも。其母ソノハハの舉動ミエナの正タカシ小感カントく。形カタチを成ナシ神カミを發ハツむ。自然シゼンの道理ダリを色イロバあり。今の世イマノヨ小くも如此カクマデ小能イナクむ

こも。胎内クワイノの子コら必母オホハハの性質キヤク小類似ニヒものあること常ツネ小忌イミび。身ミを責セメ己コノを刻イミハ。昔イマカシの胎教クワイケウの一端カタハレあり。こも修得マシユらるべきこと。あらばや。さも色イロハ懷妊クワイニの攝生セツシヤも。まゝ天地自然テンチシゼンの道ミチ小從シヤク修身シヤク正心コウシンの外ホカ小あらぬこと。よく識得チカヒべきことあり。

惡阻ツハリの意得イデを説セツ

妊娠ハラム數月スヅクキを歴ヒく。飲食ノミクヒこも小吐逆トキダシ一く容納オサマリおたく。諸藥シヤク効キカあるものあり。こも強シヒて止ヤメむとむるも却カク害ガイあり。一應藥オウヤクを用ヒて治イラことあるハ。必灸藥オウヤクを託タカシとせむ。自然シゼン小治イラを待マツべきあり。故ユエいこもとあるハ。併病オホヤクもあさ惡阻ツハリも。藥クシせむ一く必治オホキものあると。誤アヤリく駛藥オウヤクをどを用ヒく。其自然シゼン小拗戾オウリたる治術シヤクを受ウケルことあるハ。

後必臍を噬の悔あることあるを懼べあり。懐妊し直小惡阻
とあるもあり。五六月小く發もあり。いづれも經脈和胎位定と
さるらねば治ざること。先記得るよし。然と雖寒熱往來あり
て咳嗽あども出漸小羸瘦ものも。それより一々勞瘵小あるこ
とあまハ。必緩者べらば。懐妊中惡阻小咳嗽を挾やめて勞瘵
小成て死ぬるものま、あり。或る孕中故ある。産後蓐勞とある
もの。こまら惡阻を強て治さんとし、發するもあり。惣諸病
とも嘔氣甚く。一切の藥を容受あたさるもの小。伏龍肝一錢五
六分許を水小和。其水を澄清て。粉の交ぬやう小分。火小温生
薑の生汁二三滴を加う用を。大抵の嘔止ものあり。水のま

ま小用ることもあり。伏龍肝といふも。田家あま小く年久あり
たる竈心小通赤小焼たる土塊あり。そを極細末小く用藥
舖小もあるものあり。この水小く半盃を煎ト服るもよし。胃中
小汚穢ある。滯食小く嘔を發たるもの小。此等の藥を先ハ
効あり。こまら豫知へ。

鎮帯を用る心得をこく

懐妊小古昔よりの習小く鎮帯を用ること。其利害の論區々
とども。元來懐妊々天然のものあまハ。鎮帯小く胸下を纏縛こ
こハ。可あらぬこと小く。緊紮とさる。胎の生育の妨害小為て。難
産の原と爲ことあり。妊娠中小嘔逆浮腫を患るも。この鎮

帶の害小由者か不し。故小近來帶下鑿之と禁むること其理至
 極せり。然らあまも往古よりの俗習小く。孕婦五月小いこと
 着帶を祝こと。貴賤槩てしあり。千餘年の昔よりあくの如の
 弊のまさら止むたさる庸人の常あるは。強く鎮帶を脱しむは
 狐疑を生甚小至てら。紮定さまは兒肥太く産艱あるいふ。層
 說妄言と信し。空小之の爲小識神を勞むるの害あり。故小た
 だ布の粗薄もの單を用く。緩小腹上と掩纏。その端を挾て脱べ
 のらざるまごふて。縛紮ことあるを可ことを。かくをまは胎の倚
 斜とも防。その婦人の意も降あり。其説の委こと。既小坐婆必
 研小載たまは。此小る略しぬ。たゞ嚴禁べること。房勞あり。四



形名婦義勇 諫其良人圖

産帯の事もの小をえたるを小右記源氏物語などやとらめからん坐婆必研小もきで小いへる
 如く俗説の神功皇后三韓のむきたまふ時閑胎小當たまひし故小石を挿すまふ事おれ
 盤腸をらんとはいり是を萬葉集の鎮懐石ともおきべ胎をいたひ鎮る證とをき
 べく帯の始といひひひたし説者其竹集小奉たる人い色ぬえとへおむきぶいた
 大帯と云る連句を引て此帯をバのたと帯といひあうひ結肌ま
 小の齋肌の義をきとどのいへるものおきべ一種の
 漆結の各小あをのあきさやうの心とせ
 人の覺束おしも一の齋肌の
 名詮小とりて夾額を用さる
 世もありしふや此外中右記
 東鑑平家物語拾遺抄御産部
 類記など小も出ておかくと其夫
 てづら結へるよ小みえ又著帯を祝ともあるを思へといと
 古き世よりの習小の有けんおし席士小も此事有と覺て羨便方保産心
 法及俗説辨小引處の婦人産帯記など小いへるおもむきもあらくと、のさま小異あらば
 ちうのあきさきもあるこのことくひろく南北小とさりておま移くさきくもさるこおのあら
 さるべしさて今本父小述たる帯のゆひやうと挿おけるのこ小てを解やきくて
 大よりありおかもおのこことくしてゆるらふむきをもまさあうらば
 ともおくも帯をる人の心よ安うらんこと第一のことあらむ



五月より後々。夫妻同寢を戒こと尤切要あることさる既小言が
 ごとし。其他惣て身と屈曲て。くげいさ労働を爲ことハ可あら
 ば。多る胎を轉動て損あり。農婦小難産あるハ。妊娠月満まぐも
 否不耕作の營を廢む。挿秧耗稻をこの前へ屈む爲ことこの多
 もの小ありさきく。こさる小くも察をべし。月重く交接をるの
 體小害あることさる。この農婦の耕作の労働小も勝る。慾火を煽
 胎を壓迫こと。いのでう障とあらざるべき。まと世俗懐孕中ら
 脚を伸して臥ことと禁ト。體を屈め兩脚を縮て寢しむ。こと尤
 害あることさる。若如此とをきべ。子藏絞束らさ。下より諸藏を壓
 て。心下苦憑快寐たたく。孕中患あるのさあらむ。胎兒之を爲小

歌斜カタクリて難産ナンサンの原モトとある。必體カミタを屈カスルこと多く。兩足リヤクとも小適意コロキホト小伸ノビしと臥フスべし。尤モトモ一偏モトモ小臥カクらあし。時々トキトキ左右サカヘへ轉臥マタヘリするをよし。胎少タイスコ小くも斜スカ小あることあはれ。その倚カヨリたるるとの胸腹腰脚ムネハラコンヒ拘急ヒキツメて甚タガきと痛イタミを知蒼卒オホニ小起坐タチキあり。たさ小いたることあり。然シテ疾高ハヤカク手の尊母トリスボの乳鑿ニシヤの事熟コトナレたるものを乞コキく。按腹アンブして胎タイを正位キドコロ小復カテしむを。腰脚コシアヒの牽引ヒキツリを速小治スミヤカあり。俗家シヨウカ小くも手テを下オロシて縱容コウリョウ小胎タイの傾側カタクリたるかより。按オシく正中シナカ小至シべ。隨分スイブン少スコシの偏カタクリ治ナシものあり。妊婦ニシヤ自行ナシもよし。其時ソノトキ小く仰臥ウラガキて先胸マタと至小腹シタハラまソコく徐々ソコソコと心ココロを静シズく按排オシサスべし。隻手カクテ小く力入チカラおたりと思オモへ。両手モトモを層カタマて切按シカトオシてよくく撫摩ナマスべし。強按キョウオシても必カナラを是コト小て

胎タイを損シムるといふこととある。其費意ソノコトウカヒハあるべし。尊月リシツキ近チカらば。殊致意オホコトウカヒて毫スコシも偏斜スガカヒ小ならぬやう小をべきことあり。産小臨ウチて苦惱クネレの多少オホコト。皆胎ミナの正マサと偏スガカヒある小由ユルことあり。故小懷孕コトウニシの切緊カシユとあることあり。まは臨月リシツキ近チカらば。大便オシの燥結ヒケツせざるやう小在念コトウガクべし。産小臨ウチて胎タイの出路デルミチを礙サセく。免身ウケムのぬることあり。あることあり。故小をこし小くも燥結ヒケツ日ヒを經スルことあらば。速藥ハヤクシヤクを用ヨウキく宜ヨクかど小通利ワカレあるやう小をべし。ささ小もいふこと多く。懷孕コトウニシる自然シゼンのものあるを。孕ハラムたるる必カナラ分娩ワケムべし。小定マサカたること小く。難産ナンサンといふを絶タテてあるを理カあるを。皆保護ミナの節フシあらざる小由ユルて。空小苦惱クネレのをあらば。遂小ハ母子コノミとも小命

を斷オヒス小至イタル。こは尤モツトモ嘆モタべさることあり。又ハラムナチ妊婦コノロウの留心コノロウべさへ。月ミナ足ミナて
晩期オモク近づオモクけは。腹ハラ肚ウチ急痛キレクイタモ腰コシ股モ拘攣ヒキツリ。小便ベン頻數シバシバ。カ息イキミ切キリ小促オモリ。産マ戸ハ
も裂ハんカのと思オモフふカの苦惱クルシあり。否サヘハカ晚身オムシをカさカものぞと先記マツコト
べ。而シカと微オモシの陣痛ヒキリも失措アハテて。今イマや分免ウレハんカの。其期シキも來キタぬ小
自心ココロを勞オシふ。己オノの意識イシをオシ安小ヤス悶オモシむるのさカらむ。舉家ヤチ驚オドロキて。鑿イシヤと
迎ムカフる人ヒトを走ハシラせ。穩媪オムスの來キタの遲オソを罵イカリ薬クサよ白湯サユよと躁擾オドロキの聲コエ嘩カく。
そさらのため小もまカ氣逆キガノボセて。諸藏ハラワタを上部ウヘノカタ小牽引ヒキツケ。遂ツヒ小ハ難ナン
産サンの原ヒトとあるユエ。故ユエ小孕婦ハラミ第一オノノダイの用意ヨウイハ。陣痛ヒキリ促オモシとも。努イキ挿セ甚
くあるまで。堪忍カンニンの感カミハ旁人ソノノヒト小告シラセことあるカをよカとをべ。其ソノ
夫親ウツト及オヤ貴人オホキの婢長ソノカシラもこの用心コノロウをカけさカハ。産婦サンブの爲善タメノヨシのらむ。假タテ

令洗トシ娘メの未詣イダ小晚オム。其兒ソノコを收トメこと過時オウジキともよく包裏ツクミ寒風カゼ
小さへ胃イハめむカ。決ケツく害ガイをカさカものあり。産婦サンブの心氣ココロモチだ小
平ヘラして。上逆オノボセの患ウレヒあり。胞衣ハシも速オモカ下オスべさカともこカより論ロン
を。假令タトヘ胞衣ハシの下シタること遷延ヒヤドルとも。必患カナマシラべさカこと小あらむ。こ
また胎兒コ免身フマレて。其用ソノイ廢オスハ必下カナマシラ去オスべさカハ。自然シゼンのこと小あり。日ヒ
數カズ經過スジをカそのま、子藏コノゴノウチ中ナカ小腐壞クチヌシて。終ツヒ小出イダべさカ不定オモシりた
るものあり。こらく初ハジメより産婦サンブの意ココロの降オチて。胞衣ハシの下シタさる小
懊惱オウノウせぬやう小あること尤モツトモ切要キヤウあり。こは胞衣ハシ下シタらば痛カケ
癩ヒキを發ハシく。暴死キコシをカの變ヘンハ決ケツくさカことありと思オモフべ。故ユエ
小このこと小豫孕婦カチ小示諭イヒべさカことあり。猶末オホの胞衣ハシの條テ小

於く辯析を看く知べし。

妊癩を救心得を説

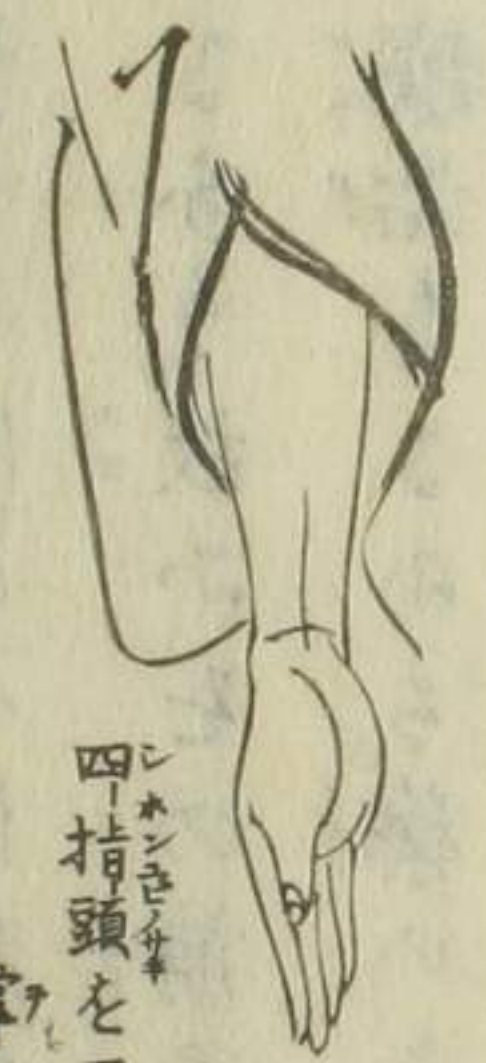
此病は妊娠中の劇證小しく。呼吸促迫眼目上吊。口噤反張。人の省なく。その胸下堅結。心小衝逆勢甚しく苦澁あり。倏忽小發ものあるべ。鑿師を招小も多ハ副急ふたきものあり。故小之を救の法と豫て識得べきことあり。其法は妊婦を仰小卧し。て。さく其左旁小從く。婦の脚の方へ面を向く坐く。右の拳を以て。婦の左の乳の正下の肋端の不容といふ處を。力を極て抑按べし。但し心窩の方へあけく。按處ハ肋骨端腹部小く乳の直下と記べし。右拳小く力足むべ。左手と右の上へ添く力を合べし。

尤周身の力を手頭小在し。強按小非ハ制止ふた。あ不按もの。小腹小努力を入く。切と應手あるやう小をべし。掌をさく。小て抑力よりハ。腰を定て正と抑壓ふた。利ものあり。や、苦迫寛小あると知ハ。拳も從く縦て。勢の旺衰小任緩急宜を得べし。心小毫も怠慢なく。た。其勢の靜あるとさハ。力を用ること。微せささハ。拳疲て勢旺とさ小抑定ふたけさハあり。月満く拳の胸下小入ふたきもの。四指頭を用く按もよし。容易の力小てハ中く壓鎮ふたきこと、思へし。決して按て胎を損んると疑慮ことあると。其患も必あることあり。あ不圖を參窮へし。こは不限と。一切の病の心下小衝迫こと劇もの。此術を施てよ

妊痛を救ふ圖



合掌
 雙手ゆゑか足さる
 こまかくしてカを



四指頭を用て按
 掌のこのち

同症月満く拳の
 胸下小入のたき
 を四指頭を用て
 按のこのち



腰ふかといとて抑壓んタ
 たゆ小掌を帯のあひと小
 挾一このち

世ヨ小謂イニカクケレヤクレン足痺衝心ルキの類。小兒キタフクの癩瘕ヒトシをど小もこの意イニカクを用ヨこを
を按オシて効カクを得トルとあり。前マヘの小兒コノコの條トコロ下小シモ記シたるをも。こ、小互ヒキ
檢アヒて考カガフべし。

小便通せざるべきの心得とそく

懷妊クイニ中小便ベンフウレ通利ツウリありくあり。漸シダシ小閉塞フサカリく終ノヒ小も涓滴ヒトシも通ツウせぬ
やう小あり苦懣クルシムことあり。如此カ、ル、レ、ヨウ症ヒト、ホリを尋常ヒトシの小便フウレ通利ツウリの劑クシも寸
効シニレを効カクのそ小あらむ。却カヘツて浮腫ムクミ腹滿ハラハリを増マし。飲ノミ啖クヒもあらば横卧ヨコヰ
もあらぬやう小なりく。假令タトヒ小便フウレ利ツウリても。身體カラダの疲憊ツカレ素モト復フク
かよく死シ小いたるあり。故ユエ小その前マヘあらば速療ハヤラク治チせ祓ハラへあら
ぬ證シヨクあり。小を療治レウヂもする小。藥クシのそ小くも効シニレあることあり。

高手カクシヤの産科サンカクを識得チシユルことあるべし。そを小託シタく手術シユヅを乞得ゴヒて疾小
便ベンの通ツウりあるやう小をべし。そを小託シタく手術シユヅを乞得ゴヒて疾小
漸大ヤオホキ小をそべ。小便フウレ通利ツウリあるごと小伯礪ヒカユルやう小あり。まゝら尿
道閉塞ダクニトチケルやう小慮オホエて。いつも通利ツウリ爽快コノロヨあらば困苦ナンギをすることあり。
このとけり。小便フウレの滲シニきたる囊フクロを膀胱ハツクダといひく臍下ヘツノレタ小あり。
其口シノを陰戸マヘの上際ウヘノカタ小出イデたるものあり。さく子藏コツボも其後シノノレロ小位サマし。
前小マヘも膀胱ハツクダの尿道セシツケレシチあり。後小ウシロも腸ハラダの尿道セシツケレシチあり。其間シノノレタ小嵌ハサマたり。
この子藏コツボ胎兒イラノコの月ツキを重カサキく生長セイチを小隨ツレく張オホキク大オホキクあるあり。も
故シテありく前マヘへ倚斜カクヤの下小垂フカリく。横骨ヘキツ上際ウヘノカタへか、を。膀胱ハツクダの口
を壓オス也オス小。小便フウレの通路ドールミチを閉塞トゲフサキて快利コノロヨクシのぬるあり。こを藥小

て通トさせんとするも。たとへば喉を絞らるるもの小噴薬
 をもるの如効應をたことあり。喉を絞らるるもの速その手
 を放バ氣息通理ふ。膀胱莖小壓ところの胎兒を提起て鬆と
 して洩利を。其法を廁小登り小便する毎小己の両手を以て横
 骨上際へ重按る。上ののよへ胎兒を提挈やうふして膀胱莖を
 壓ものを寛とす。小便速ふ利むるあり。之を提起小へ重掌小て
 先小腹の皮を下へ引をり。横骨上の腹皮小餘裕あるやうふ
 て。その手を横骨上際小投入く。大力を張る擡舉さす。下墜
 たる胎の復やうふるならぬあり。小腹の皮を下へ持満る。上へ
 提ときの餘地あらぬめんが爲あり。さくさくと小便しをとり

て手を放也。妊婦自提こと能はば。便器小跨りぬ。一人其背後
 小在る。婦の帯をゆるめ袂より手を挿る。前の如く横骨上際
 小隨く胎兒を向上をり。何も下の圖を看て檢べ。まよ已小産
 に臨て小便膀胱小實て。兒の出路を礙を。必先其小便を通む
 べ。其法を妊婦を便器小跨りぬ。常小便をすることく小し。車
 慣たる婦の隔心をたぬものゝと小よく諭告る。産婦の背後小
 接。その跨間より陰戸中小食指と中指をふのく挿
 て。子藏の前のよへ迫ものを釣曳て。上へ擡舉や
 う小をさす。膀胱莖寛鬆て小便快利也。胞裡の洩泄盡たりとあ
 るハ手手を放べ。かくく通利をとるうち小疾産科鑿の高



妊婦小便通すのぬること
己の両手を以て胎を提挈する圖



衣服のうへより提挈するやうに
畫たきともその實は直小皮肉
小手を下さねばおもふやうに
ハ提挈した。此のハたゞその
術意を示すまであり。ゆゑ小本文
の旨をよく會得してのちを行
べし。

さてこの症あるものハ。
懐妊中よりとけその飲咳を
ひのへさせねばのからけ後
害あること豫慮べし。

同症人を一々提挈志むるのこぢ



産後の小便閉と
通トカキニシヤ



手あるもの。生婆の術小精ものを招く託べし。まゝ産後卒小便通ぜざり苦悶もの。其婦の小腹の左方。脾樞骨と横骨と相接ところの内廉の腹部小。微隆起ところある。七色を按尿道へ徹て疼を知らり。その處を按く上の方へ勾引やう小を色バ小便利むるあり。赤色も初小言ごとくして。下の方へ扯く皮小餘裕あるやう小せ糸ハ。痛を知るあり。便器ふる、らせく背後より行ハ。左の袂を袒せくを色より手を挿てよ。産婦萎頭たるもの。仰小卧せく綿絮を陰戸小あて、行も可この三症何も小便通利の劑小てら効あきもの小。輕視小を色ハ不測之變小逢ことあり。遺専門の人小聽てその治術を受べし。今

此小述ものも。たゞ急卒の用小具んを爲のまあり。

催生薬の心得を説

世小臨産の催生薬といふものを。用ること。俗套をまごも。更小其理をたことあり。時來をいして。いふ小奇效の薬ありとも。婉得べたもの小あらば。陣痛頻をさ小。さやうの薬を連服しむを。却く胸膈小泥滞て害とこそある。利あること決し無るべし。も一薬小く免身ものあらば。草木の果實も糞漑をさ小。時の來を待ば速成熟さるる法あるべけとも。其期小至れば。然こと能ざるも。衆人の知ところあり。かゝる催生薬の益をた。六とまゝ推知を。志のらあとも。有病者とは。常の例小あ

ら杯へ薬の用絶く無といふ小あらば。臨産をた。陣痛を忍て時の來を待。その耐たき小至く坐草小。如む必々着急焦燥ことある。これ第一の用心あり。

臨産の心得を説

産小臨く難婉ら。胎の軟斜を忍小由もの多けま。産媪小告く。過正位小復しむべし。産媪術疎とま。旁人よく腹を撫て。微小ても倚斜たるもの。按て正中へ復べし。己小産せんを。期來くる。腰間より股膝へ牽引く。坐卧自由あらむ。重を知。肛門の方へ膨脹やう小もあり。小便頻數小く忍た。陣痛來頻。或も両手十指頭小脈動を自知もの。こをら免期近小在ま。か

りる候レあク倏タナトナ忽ヒトシキリ一陣痛ハ小ハくく免カ毛シのモあセ色シ也也。そレ色シらハ少シを
るコトとモあリ。已ス小ハ婉ニんとモるコト小ハ至リくモ。腰コシノヒタ間ダ殊ト小ハ重オモク墜ク。周シ身ミ小ハ熱ナツ
とモ發モト額カシよりハ汗アセ出イ。眼メ裡ノ小ハ華ハナをシ視ミ。陰マ戸ヘのウ裏ウラ脹ハレたるコトとモ疑オモ也也。陣キリ痛ム
堪タかクたク破ト漿ア先マ出イとモ微レとモくモ。胎ハラ児ノ子コ宮ノ口ノをイ出イるコトあり。古より
分ウ娩マがノ男ヲもハ俯フ女ヲもハ仰アといフるコト非ア小ハくモ。男ヲ女ヲもハ俯フをカらハ産ウて。
地チ小ハ落オハハ仰アるコト。破ト漿アとモ云イ。粘ネ滑リたるコト液エ小ハくモ。被フ膜ク自レ然ニ小ハ破ハ裂レ
てコのコ水ノ逆ホ散ルとモ。胎ハラ児ヲ車ノ乘リ小ハくモ。滯ヒるコト陰マ戸ヲ脱オ出イるコトあり。
一サイ切ノのコ動イ物ヲそノ生レむル小ハ先マ鼻ハナよりハ。竺テン土サクのコ古ム昔カレ人ノ母ハ胎ハ小
形カタとモ成ナとモとモ説トくモ其ソノ理リをイへル小ハくモ。漢モ土コ小ハ鼻ハナのコ字ジとモ初ハと
訓ヨもハ其ソノ意コあタとモり。今胎ハ児ノ産ウ小ハ先マ鼻ハナよりハ。天レ地ニ自レ然ニのコ妙ミ

理リ思オへル。故ユ小ハ其ソノ面カをマ陰マ戸ヘ向ムくコト鼻ハナよりハ産ウ出イるコトもハ出イ産ウ決ケ
て碓あけ也也とモ。破ト漿ア後ノ時ト過ク也也とモ。胎ハ児ノ産マ門ヘをイ出イとモ能ナぬ
ものモ。こレもハ胎ハ位マのコ正マらぬ故ユ小ハ面カをマ向ムてハ娩マとモ能ナぬ。頭ア臙マ先
出イてハ陰マ戸ヲ小ハ挿ハ也也。下サ墜リたル由ユもハ多オい。小をモ也也とモ。産ウ出イ
かク。生トリ軀ノのコ術ワザ小ハ及カたキ小ハ至リくモ。世セ間ケンのコ帶ナ下ノ鑿ク竊ヒソ小ハ鈎カギを
用モてハこレをモ曳ヒ出イ也也。此コ鈎カギをモ用モてハ顛ア骨ノをキ傷ケゆル小ハ免カ出イくモ。兒コ
もハ死シぬルあり。あ也也止ヤとモ得エざるコト計テよりハ出イたりと雖イ不レ仁ニの
所レ爲シ尤モト惡シべシ也也。こレもハ其ソノ生イ胎ノもハ死シ胎ノ小ハ諉オくモ。俗シヨク人ヲをカ瞞カもハのコあ
まハり。其ソノ他ホカ先マ手ヲをイ挺イ或シもハ脚アをイ出イまスら横産ヨコ小ハくモ手ヲ脚ヲと
とモ交オ出イるコトもハ。其ソノ他ホカ坐ザ産サンとモ先マ屍シをイ見ミ以レ類ルのコ手ヲ術ヲのコ及オ

ざるものも悉コトヘクのの釣カギを用コトことのと認コトヒ甚ハナシふ至マても寤サカゾ生の
尤モトモツマシ免ヤスキ身ヤスキし易ヤスキもの小カギ釣カギを以コトて兒コを害コロシたりしもあり。あるこ
とを其ナニトモオモハ井ミダリ心ナストモラオホシし。安ミダリふ爲ナストモラオホシ徒ナストモラオホシ多ナストモラオホシ。ゆゑ小人セケン寰ヒロキの廣コレ之タメを爲タメ小子コノスを殺コロスも
の多オホキら幾イクバク何ナニとや。近チカキ頃キコら收トリ生アゲ媪ババ小オホキも之コレを行オコシものありと聞キケり。釣カギ
を用コトることも皆ミナシ俗シロク家ト小カギ秘カクレ殊コトニ産サン婦ブ小オホキも知シラセさるやう小オホキむること
あはべ。醫イシヤ士トリ坐アゲ婆ババの術ワザ小オホキ由ヨリて命イノチを續ツキたりと喜ヨシども。己オノレが子コもこの
の釣カギの爲タメ小オホキ殺コロスとたることを知シラさるる。蠢アサマシク愚アバム可シ哀シこと小オホキら。名メイ利リ
小オホキ奔ハシ世人ニヤドクの慘ナゲク虐ナゲク。嘆ナゲク息ナゲクべきのさニきりあり。故ニ小オホキ今イマ丁チン寧ゴロ小オホキ告ツケ諭ヲシユべ
き。胎イイも被フク膜ク中ノの水ノを車ノ乘モノ小オホキし。滑ヌリ脱タシテ免ク身トといふ。自然シゼンの理リ
小オホキ意コトを潜トメて審クラ思ヲをば。その之コレを救タシべき手段シユダンを俗シロク家ト小オホキも發ハツ明メイ

とべきことあり。况マシ賢イシヤ家トリ生アゲ媪ババ予イフの辭マケを待マケて知シラべた小オホキあらば。
予オホキもた。釣カギ術ツカヒの世ヤニ小オホキ廢ニチリ棄リて。兒コの横ムリ死シもるものあらんことを
欲ホクの。素モト專ツク門セン小オホキあはれ。婆セハヤ心ココロの黙モダレ止トふ。く。俗シロク家ト小オホキ告ツケ諭ヲシユを
す。其ソノ蘊クシキ奧イタリ小オホキ至マて。世ヨの收トリ生アゲ媪ババ小オホキ傳ツタへ。廣ヒロク天下オホク小オホキ行オコしめんと思オモ
て。別ベツ小オホキ手テ記シたる書ホンあり。惣スベてか。る禍ワガヒ小オホキ罹カレも。其ソノ原モトを檢ケン色シば。皆ミナ
攝ヨウ生シヤウの天リ理リ小オホキ逆サカヒ心ココロ意イの和スナ平ホをらぬより起オコるものあはべ。婦メナ人ナ
るもの豫カキテより懷クワイ孕ニシの自シ然ゼンある理ワケをよく明アキて坐オキ卧フシ飲タベ啖モノを慎ウシ心ココロ
意イの寛ノビ舒ヤカ小オホキあるやう小オホキむべたことあり。も。不サナク然クし。徒イタ小オホキ
と。こ。と。熱アヒ中ニ陣シ痛リの耐タふたさや。努イキ捍ム小オホキも。心ココロ身ミを勞アカラ費ラシ氣キ逆サカの
ち小オホキら。諸ハラ藏ツマ經キョウ脉マツ上カミ小オホキ牽ヒキ引ツリ腹ハラ肚ドウ擾シユ亂ランし。卒ソビ小オホキ難ナシ産ザンとあるも

のあまは。今イマ娩マシ身ミまでもコ、ロモチヘイセイ心意カニル平素ヘイセイ小異コトことカニルなく。必カナラシ其ソノ自然シゼン小委コト委マカべい。どの期キ至シ杯ハ。いオモフの小思オモフとも産ウマル産ウマルきもの小コトあらば。こオモフ色シら
のことコトと常ツネ小記コト得トクて忘ワスレさるやうコト小コトまべたことコト肝カン要ヨウあり。然シカこ
れカニル必難ニシ産サンなく。娩マシ後ゴの變ヘンもあるべコトらば。故ユエ小此コト一イツ條ジョウより外ホカ
小用コト意イあコトと豫コト思シべコト。まコト産イ椅イをコト用コトるコトも宜ヨシあらぬこと
あコトから。是コレまコト習セ俗ソクの常ツネあコトまコト。卒ニハカ小廢ヤメたコトと雖イハレ凡モトて産サン後ゴ小
らコト心ココロ身ミ萎シ頓トもコトのコトあコトるコトを産イ椅イ中チウ小端コト坐ザせコト。睡シ小も頭カシラを俯フサしコト
むコト。微オホも偏カタヨレバコト旁カン侍ガク者ニン之コトを警ヨビ覺サマしコト。七ヤ夜ヤを過スまコトるコトかくコトのお
とくコト小コトまコトるコトことコト。習ナラとコトいコトひコトあコトらコトも。其ソノ狀アリ死シもコトうコトつコト、せコトめコト小
類ルシく。産サン婦フの精キ神シン大オホ小困ウツ憊カレ虚フツ乏クシ。血チ液リの運メ行ケリ遲アレ滯クナ易リヤく。後ゴ日ジツの

病因ヤミノタネとコトあコトるコトことコト明アるコト。惣スベく産イ椅イ中チウ小在アル間マ。腹ハラ中チウ寬ニル裕ヤカをコトらコトぬ
バ。殘チ血ケツの洩モル路ミチを挂サマ碍タケルことコト多オホク。腸ハラ胃イ舒ラ暢ツタをコトらコトさコトまコト。飲シヨク食シヨクの消シヨク化シヨク
も兼ヨロシ順シらコトらコトばコト動ユヅルハコト熱カモを醸カモしコト。食シヨク眩メキ悸メキ頭ツツ痛ツツをコトどコト。便ワツ利リ調トウべコト。膝ヒザ
脛ヒザ麻シビ痺レ後ノチ々ク脚カク痺シビ癢ア雙レ小コトあコトるコトものコトあり。故ユエ小産イ椅イの害ガイをコト爲ナスこ
とコト如此カク居コト多オホクをコト知シラハコト。斷ナク然シテ用フべコトきコトものコト小コトあらコトば。孕ハラ婦フある家イハ翁アヒ及オヨビ
婦フ人リも。此コト理リを會ガ得トクせコトバ。他ホカより問タツ訊ツクものコトいコトらコトるコトことコトをコトいコトふ
とも。そコト色シらコトのコト小疑マド惑フことコトなく。産イ椅イを去スて用フることコトなく。
娩マシ後ゴ々ク枕マクラの方カタを漸シ小昂タカクく。常ツネのやうコト小脚アシを伸ノビく側ヨコ卧ヨコ小
まコトべコト。その蓐コトの製シ々ク下シタの圖ニツを看ミて知シルべコト。世セ間ケン小用コトひ来キ産イ
椅イを廢ヤメてコト如何イカニあらコトんと。疑ウタ惑ガヒ解ハレやらコトば。平ヘイ素セイ注コト意コトて産イ椅イを

産褥之圖

被褥敷て用て重層て
凸凹あるらぬ漸小昂

あるやうにして

只肩の當處を少西

側より低し其上小褥子

を鋪枕を軟ある

その代用で褥の下

より細めてつりを

おけて轉ぬやうなをべし

枕の昂々宜とも餘に昂々

好らぬ大要頭と脚との

高低一尺餘を程とせし

七日を過て少低し二七日々

程ゆる常の如しとせし

可或る褥子ふく圖の

ごとくふくこらへ

せし

下のへあけんると

おもへるもの

の褥

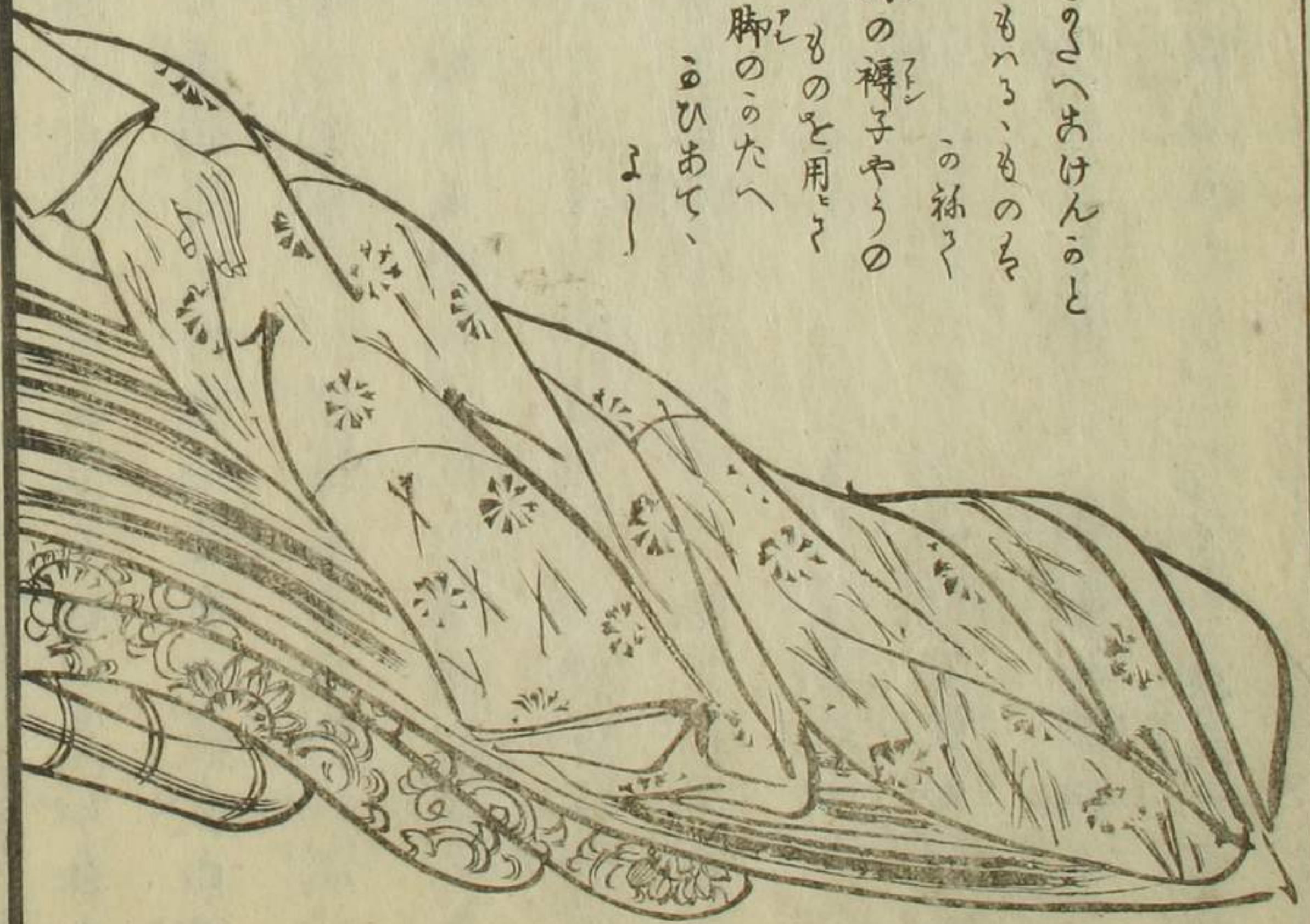
別の褥子やうの

ものを用て

脚のたへ

のひあて

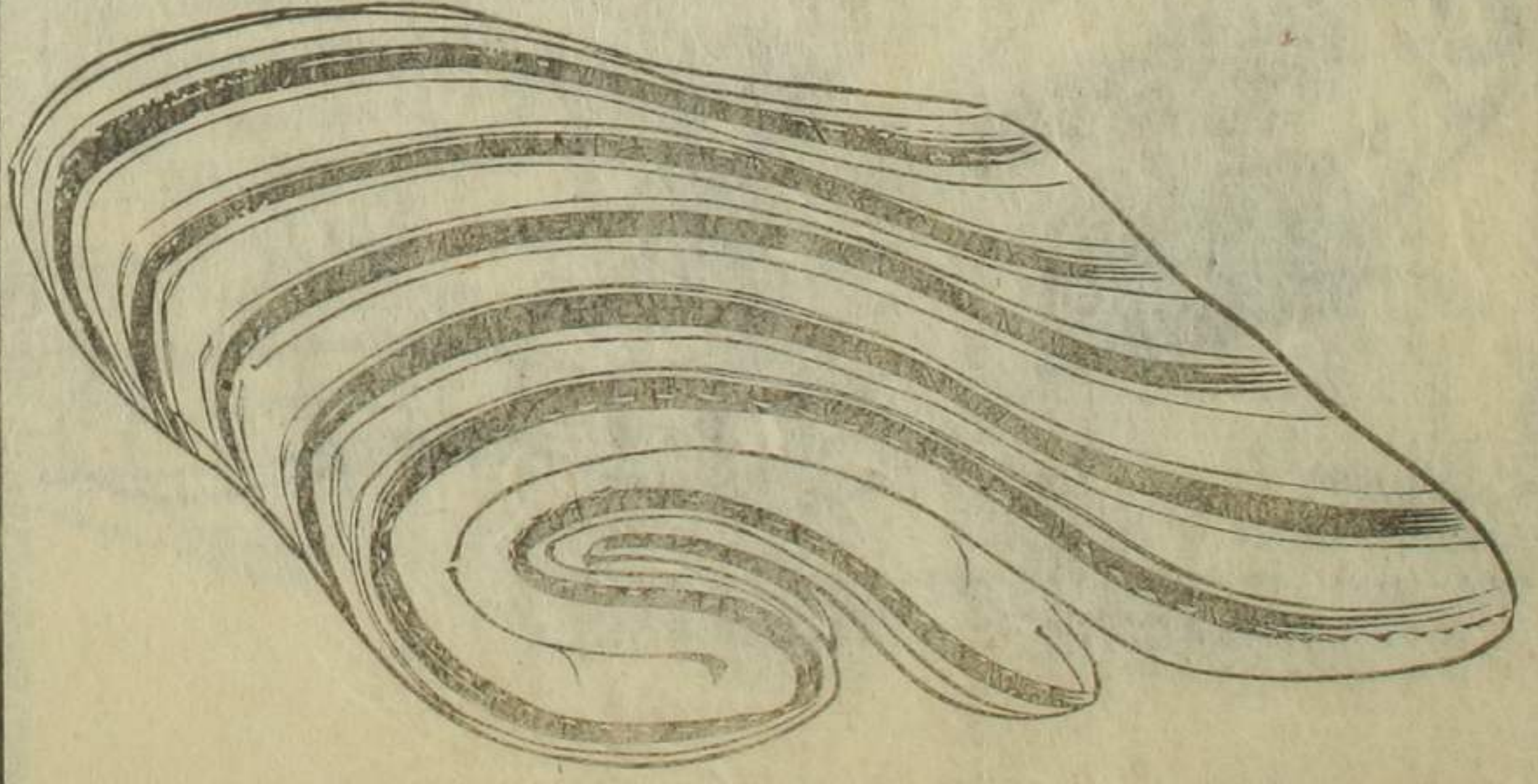
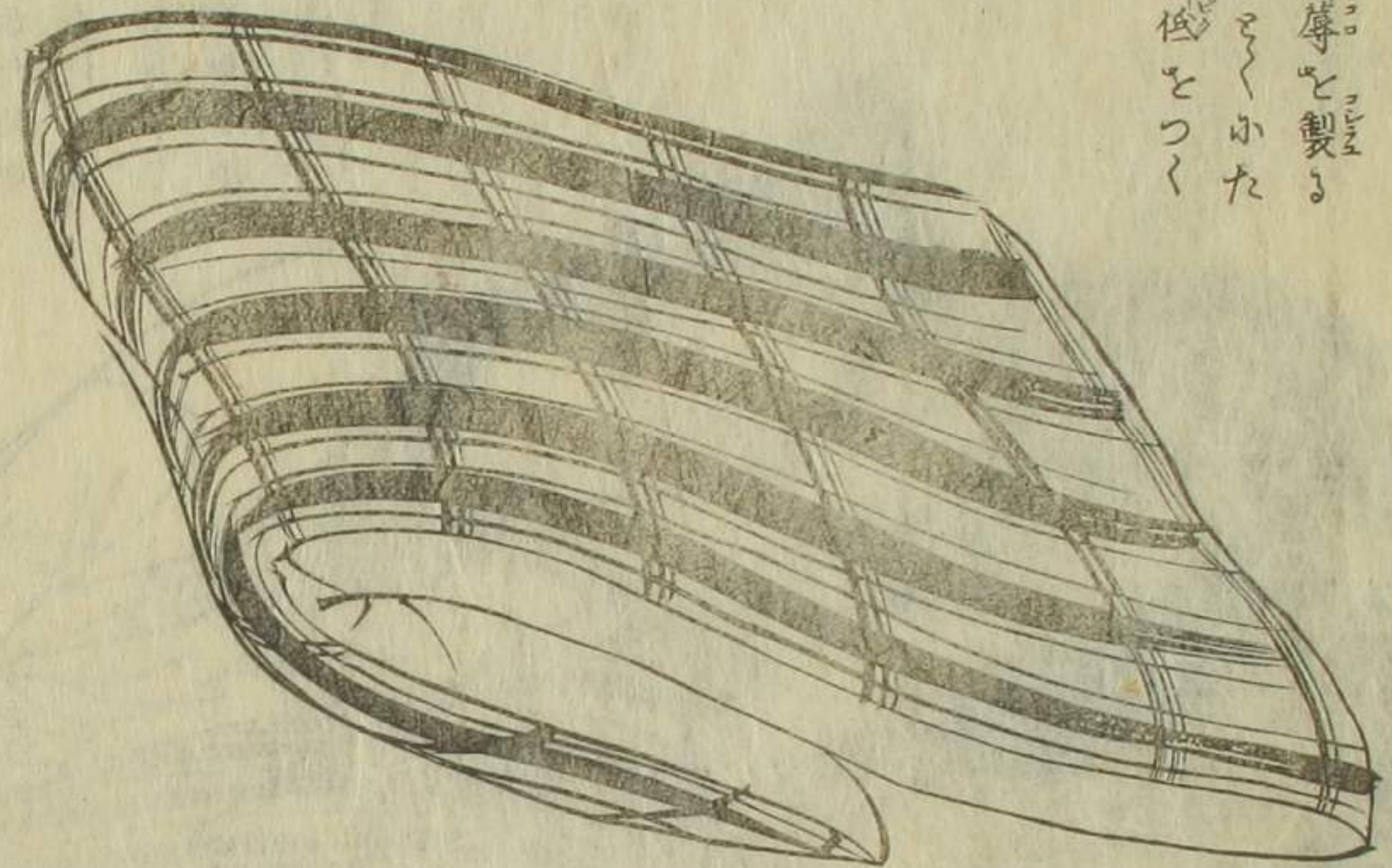
し



圖々その状を示ためか
ふくのおとくあれども
産婦の體へこそより
おちつくやうな
せしこととせし
うせし

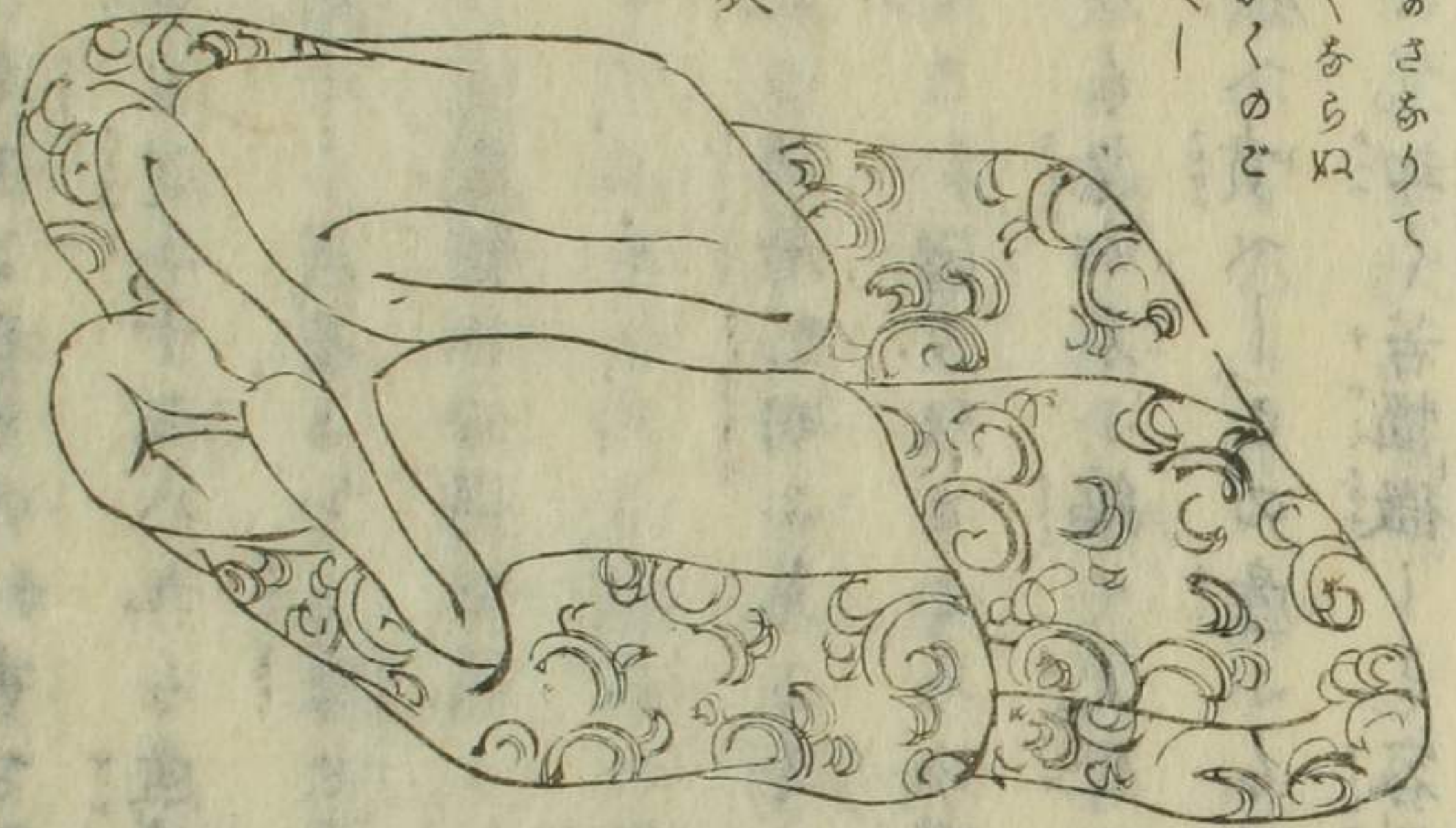


苗褥を用て産尊を製る
 小らるくのおそく小た
 へて漸小高低をつく
 るあり

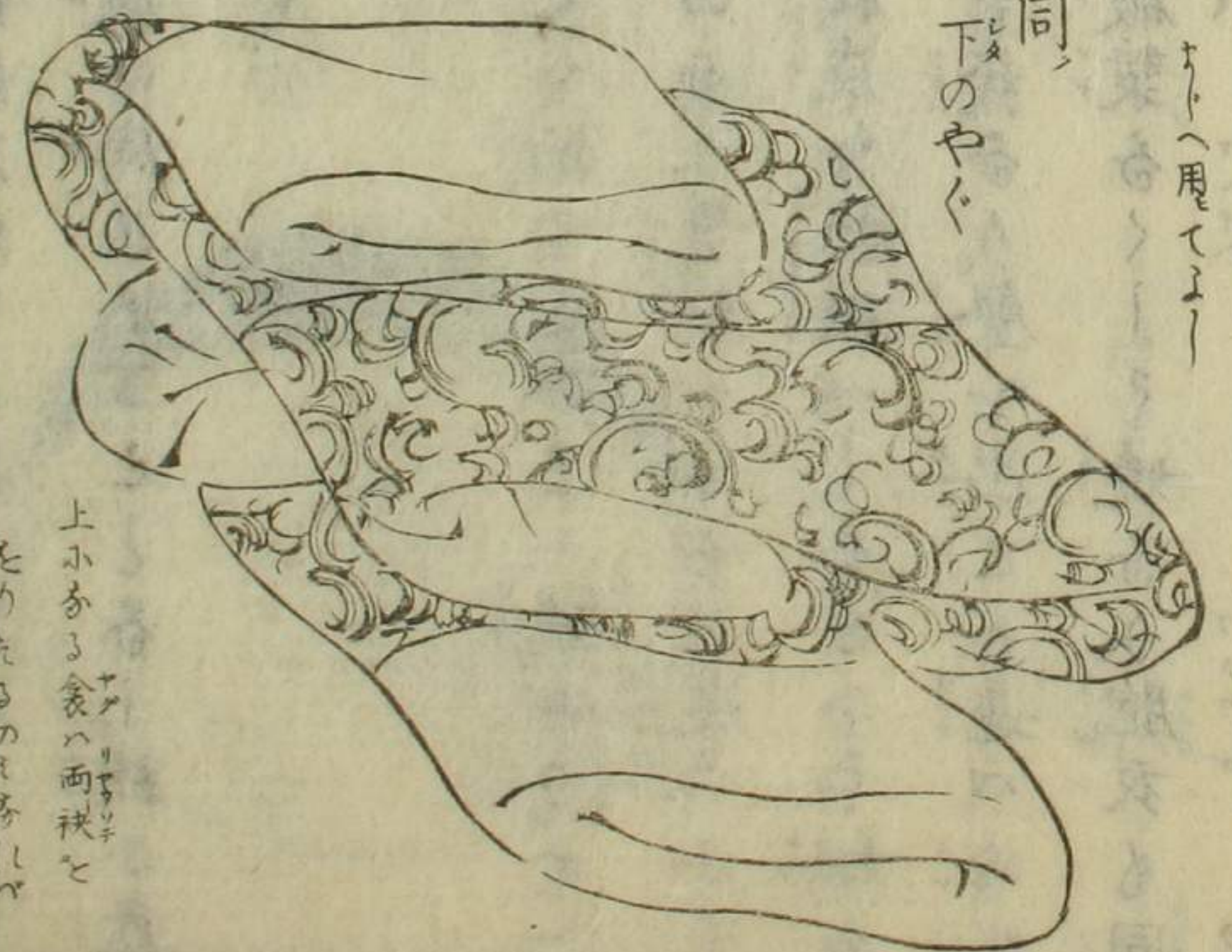


被褥の襟のさありて
 中央のたのくをらぬ
 やうふしてかくのご
 とく小重層へー

前の圖
 中の衾



小時被ひまき
 へて用てよー
 同
 下のやぐ



上小なる衾へ両袂と
 をりたるのそをれば
 こふ圖せき

用る人と用ざる者との利害を辨知せしむることあり。其用ざるものも復素も速小。十の八九は産後の病患あることあり。故小産椅を決定し用ざるを上策とす。

被膜胎の心得を説

被膜胎といふものあり。胞衣の囊を脱むそのまゝ、娩あり之を透視へ。児の蹲居形明小見るものあり。驚駭べらば速爪小く児の頤下とおほし処ところの膜皮を抓破べし。小刀小く切もよし。膜皮を忽四方小縮て児聲を發あり。聲を出こと遅バ冷水を児の顔へ噴べし。この産ふる破漿をくくく娩あり。胞衣も同續て出さバ。却く苦惱微く容易し。一家小くこの冒膜兒を産

たるもの其異状小驚怖て之を捨さりいと聞り。世小を是らのおとあはれ小もあら絲ハ。圖を此小示のまゝて胞衣と膜とを自別あるものを一物と誤認する輩あり。是を此小用をたことあまばいもは審知んと要ものも。坐婆必研小記載するを視べし。因小いふべきも。兒落地と聲を發を。或る手足軟癱。色青白。死ぬる見ゆるものも。まづ冷水を頭面及背上へ頻小灌べし。是も小くも聲發は。吸呼もあはれおごとく思るものも。仰小卧しめく。肩井より膏育の邊を背の



五七推の二行とや
 を指頭小力を専て強
 揉とき小も多も聲を
 出さる聲發たる後ら
 壯健ある婦人の懐小
 ら膚小著温べし。男子
 も無妨臨産期過る。母
 子とも小虚憊さる者
 小多あると小尤
 識得べしこと也。



二行とほりの
 五六七とハ
 このありの
 ことと
 いふあり

産後の心得を説

産婦を椅子小在しめ。横卧を禁ぜし流弊も全金創を縫裏帯
 ろど施さる後身體を動搖の創口再被開て。血の洩出ことあら
 んのと懼て。危坐をよしとさるより。錯来さるあらめと。産後の
 泄血もさるとも大殊小し。少けは必後害あること小。且天理の自然小病小あらば金創をどし同一小も心得べら
 らば。殊産椅の害衆多こと。坐婆必研小も記さる如をさ。斷然
 廢て用こととなく。前小圖をさること小臥褥を造る側臥小さを
 へし。必起歩る幕小着しむべららば。匍匐小さをさるあし。をさ
 らのことと坐婆必研小説あるせり。産後小鹽を禁る。瘀血の下

こと少のらんこと戒懼るあきども。毫も喫しぬさるも。食を拒
く害をあることあきバ。宜らぬことあり。魚類を愆く禁ば性
味輕淡も用く苦む過小食禁の嚴ら却て不可ことあり。くきく
も天地自然の正理小孕さう生さるもの。鎮帶を用て
緊束し。産椅小坐く苦楚しむさうへ。飲啖をまら嚴制し。味を
失しむること。いさぐの生意小適べ。然せんより。初小其色
慾を戒身體を運動て。消化小礙なく。心氣を和平とし。憂悶を
のらしむることを巨益を也。又産婦の室中を冬も温煖小さるも
可け色ども。火爐を多安。數人會聚も好らば。時々便房の屏障
を徹鬱塞たる氣を排洩べし。夏秋の亢陽小。桶子も窓戸も悉

開く。清風の往来あるやう小をべし。屏風蚊帳も無用あり。も
室裡鬱蒸を也。産婦肌熱し汗洩れど。體徳病發く。不測之變
を招くことあり。ゆゑ小四時必其氣候小從く。常の棲處を異こと
あく。旁人も居小適やう小さること。あき第一の心得あり。今の
世豪商や貴族の産後小。諸患あり。平穩をらぬ。この用意あ
しく。自然の道小戻が故あり。このことよく顧慮あるべし。
眩運のこ、ろえをこく
産後の眩運劇も。腹を上部へ牽引やう小あり。胸へ衝逆ゆゑ小
頭眩或運轉く。生氣を失あり。急卒小發もの小く。醫工も問小あ
えぬことあり。此症も下より衝突く。心窩を左の肋の下へ連く

急迫^{オシセマル}ところの塊^{カケ}ある。そを^{オシメテ}壓鎮得^{オシメテ}と^{ハセ}ら。劇症^{ハセキセキ}をも救^{タメ}べし。ゆ
 る小病^{ヤミヒオコリ}發^ヲりこみ^テば。捷疾^{チヤヤク}その婦人^{メカヒ}小向^{ヒヤリノテ}り。左手^{ヒヤリノテ}をその右脇^{ヒヤリノテ}下^{ヒヤリノテ}
 より回^{マワシ}り背^{セナカ}へ^{アテ}抵當^{チカガヒ}乳下^{チカガヒ}の肋端^{チカガヒ}へ右手^{チカガヒ}の大指^{チカガヒ}と食指^{チカガヒ}とを左右^{チカガヒ}
 へ開^{ヒキキ}て。其衝^{ヒキキ}逆^{ヒキキ}ものを^{ヒキキ}き^{ヒキキ}び^{ヒキキ}く^{ヒキキ}下^{ヒキキ}の方^{ヒキキ}へ^{ヒキキ}壓^{ヒキキ}下^{ヒキキ}やう^{ヒキキ}小^{ヒキキ}を^{ヒキキ}べし。拳^{ヒキキ}
 頭^{オシ}小^{オシ}ても^{オシ}掌^{オシ}側^{オシ}骨^{オシ}小^{オシ}て^{オシ}按^{オシ}も^{オシ}よし。産^{イヌ}椅^{イヌ}小^{イヌ}在^{イヌ}もの^{イヌ}小^{イヌ}多^{イヌ}け^{イヌ}き^{イヌ}ば。其^{ソノ}時^{トキ}
 接^{オスモノ}者^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}左^{ヒヤリノテ}足^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}伸^{ヒヤリノテ}る。婦^{メカヒ}の^{メカヒ}右^{メカヒ}方^{メカヒ}へ^{メカヒ}身^{メカヒ}を^{メカヒ}と^{メカヒ}つ^{メカヒ}く^{メカヒ}と^{メカヒ}入^{メカヒ}る。婦^{メカヒ}の^{メカヒ}體^{メカヒ}を^{メカヒ}
 靠^{ヒヤリノテ}し^{ヒヤリノテ}め。左^{ヒヤリノテ}手^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}婦^{メカヒ}の^{メカヒ}項^{メカヒ}へ^{メカヒ}勾^{メカヒ}る。志^{メカヒ}つ^{メカヒ}る^{メカヒ}里^{メカヒ}と^{メカヒ}抱^{メカヒ}婦^{メカヒ}體^{メカヒ}の^{メカヒ}些^{メカヒ}も^{メカヒ}動^{メカヒ}揺^{メカヒ}ぬ
 やう^{メカヒ}小^{メカヒ}し^{メカヒ}る。左^{メカヒ}右^{メカヒ}の^{メカヒ}手^{メカヒ}を^{メカヒ}緩^{メカヒ}む。殊^{メカヒ}右^{メカヒ}の^{メカヒ}手^{メカヒ}を^{メカヒ}毫^{メカヒ}も^{メカヒ}動^{メカヒ}る^{メカヒ}こと^{メカヒ}か^{メカヒ}る^{メカヒ}れ。
 か^{メカヒ}く^{メカヒ}し^{メカヒ}る^{メカヒ}も^{メカヒ}生^{メカヒ}氣^{メカヒ}つ^{メカヒ}る^{メカヒ}べ^{メカヒ}ば。旁^{メカヒ}人^{メカヒ}小^{メカヒ}冷^{メカヒ}水^{メカヒ}を^{メカヒ}婦^{メカヒ}の^{メカヒ}面^{メカヒ}へ^{メカヒ}頻^{メカヒ}小^{メカヒ}噴^{メカヒ}し^{メカヒ}む
 べし。水^{メカヒ}を^{メカヒ}か^{メカヒ}く^{メカヒ}る^{メカヒ}間^{メカヒ}も^{メカヒ}按^{メカヒ}たる^{メカヒ}手^{メカヒ}を^{メカヒ}慢^{メカヒ}べ^{メカヒ}ら^{メカヒ}ば。徐^{メカヒ}々^{メカヒ}と^{メカヒ}そ^{メカヒ}の^{メカヒ}ま^{メカヒ}、

産後の眩冒を救ふ圖

この術を施す人、向へのま
 か、まておのま身とひつ
 たりとよせりけ。婦人の體を
 靠る、らるるおあらはるる
 一えられたことあるとも、
 小のその手術を示んかためか
 かくと畫るありその心得と
 みるべし。



かふる小
 拳を以て
 まるのたち

産椅中小在て
昏眩と發一
たるそのと
曳出どころ

足の指さたふて
森のくふやうか
あざくはつらあり



小身を曳く。婦の靠たる體の揺ぬやう小椅子より出。直小高
枕小横卧小さとべ。側卧さるまぐさほ按者の手をゆるめ
と衝逆の勢の鎮墜と待べ。指頭疲たらへ人を代しむる。手
を換るおひさも毫も慢弛をべあらば少選をるうち小復素も
のあり。この昏眩の發小も多方の病因あり。瘀血下の祓く發あ
る。脱血小く發もあり。脱血より發ものち。過小其血を防ぎさへ。
眩暈も止むたたもの也。其血を過の術も次小記をみよ。胞衣下
ましく運を爲もあり。何も胸下を按く壓鎮ることちかある。こ
の眩暈の發んとさるまへふる。口吻鼻旁肉潤ものあり。とさる
やみく眼眶小及ものち。昏眩直小發ありと知べ。故小婦人の

顔をよく看る。按指頭の輕重を酌用をべたことあり。伏龍肝の
細末まじり麻の嫩苗を焼存性ふりするものはまじり麻芋を焼
たる細末の類少許を新汲水一盞を以て用べし。こゝ小一の秘
訣を示あり。産後の昏眩を治す。右の藥効ありといふ。冷水小
く用るの故あり。冷水産後の昏眩を治する小妙効あり。故小産
後直小新汲水一盞を喫むるに於て昏眩の患を防べし。こゝを
往昔の遺法小く。近世の高名ある醫士も黒藥といふものを
冷水小く用ることを傳へ。其實も水小効あることを秘したり。
そをも故あることあるも水小効あることを俗家
も的實小知得べし。不測之變を救ふことあり。其説既小坐婆必研小

記載たどとも。再此小其梗槩を述べ衆人小論のそ。又昏眩發や
いふや即死するものあり。そをも逆知て衝逆ものを按壓をば
救べし。も一既小昏倒脈絶呼吸も斷。胸下を按ても其効なく。請
一醫生の伎窮たらば。疾券術の精煉者を招べし。活法小く甦生
をることあり。おは審べたことあり。おは後の急病の條を參査
べし。

瘧病ををくふこゝろえを説

瘧と瘧とちをと類似たる病あるも。瘧を妊娠中發瘧を産
後發小産後小尤多。瘧といふも。卒小角弓反張。身體到直て俗
小棒を吞たるといふやうある形小ある病あり。瘧と瘧との分



おるゝ症を卧さる
まゝ小發したる
ときの手術



起たるものを抑壓たる
のち小この脚をさこ
さちうひ小曳て尾殿を
とつきありかゝさく
めぬうちひきてハあ。



痙病をもくふ圖

産椅のうらふく

瘧と發たるを

抑鎮るかしち

こきも前の昏眩の

ごとく産椅より

出して側臥小させ

衾をかぶらぬあり



ら。瘧と發ハ人車不省。瘧と本生と失ぬものあり。但一瘧と心下

大小苦憊。瘧と心下とさせることかく。唯身體木彊小るあり。

瘧病劇甚ものら。をかく一とほ里の力小くを壓鎮ふたれもの

をかく。疾丈夫の臂力者を一と病婦の背後小接し。婦の両腋

後より男の両手を伸く。両肩より頸上へ會く。十指相叉。力を用

て下へ壓やう小をべし。起さるものを抑屈たらば。頸勁直さる

臀を轉るよし。向小人を居く。兩足を扯く尻をえづさしむるも

よし。頸へ鉤たる手をを縦む。頃刻抑定さる。病勢平穩小る

らば。いのふも力耗く忍がたく。男の帶やうの物を用く。頸よ

上膝へ懸引べし。まよ臥さるま、小瘧を發しを。其左右小拘

を側臥ヨコニ小こさせ。男ソノ其ノ後ノ小こ就マ前マのごとくにカタテ隻手ヲをフナ婦ノ腋ノ下ニに
至カタ肩ヘ出イくイ頸ノへカケ着カ。隻手ヲをフナ婦ノ膝ヘ托カ。左ノ右ノ力ヲをツクシ悉クてオシ屈曲スべ
し。まニ産イ蓐ス小こ在カてソリ痙ヲ發オす。前ノ小こ對カてス坐ス。男ノ子ノ膝ノ小こ婦ノ人ノ
膝ヲとオサ屈ス。右ノ手ヲをヒダリ婦ノ左ノ乳ノ下ノ肋ノ骨ヲとハラ腹ノ部ノ分ヲをオシ按ス。左ノ手ヲをス直ス小
頸ノよりカタ肩ヘ勾カてオシ抑ス屈スべし。痙ノ病ヲ發オんトとモるマ前ノ小こ。胸ノ肋ノ乳ノの邊
までもヒキ攣リ急ヲをカほえ。やおろく口ノ頸ノ小こもハ齒ノ齧キ小こもオ及スものヲ有リ。卒
急ノ小こ發オてイ鑿ヲをマ招マむもあらんト有リ。志ノあらんノものヲ豫カてコ記スお
のバ急ヲをス濟スことヲあらべし。そのビ術ヲをニ圖ヲをヒ按ス知ルべし。
崩漏ノ意得ヲとスく
挽サ後ゴ血チ漏リ下リてヤ止マ。眩メ暈マをハ發ス。或ハ熱ヲとヒ釀シ汗ヲ多ク出ス。胸ノ腹ノ動ク悸キ甚シ

かどノ種ノ々ノのシ證ハあるコトあり。或ハ月ヲをコ閱スもチ血ヲ下リ止メたレは
ものヲあり。かハるル類ノそのテ鑿ヲをナ施ス間ヲあらべ。敢テ懼ム足ヲ比シと
雖トだバ其ノ卒ニ暴カ小こ血ヲ泄リさりて。盆ヲをウ傾メ如キ急ニ還シ證アリ。とモ
捷ニ急ニ小こ其ノ血ヲをヤ抑スさしべ。元ノ陽ノ忽チ虚ヲ脱ス。鑿ヲをマ招マむもあらんト有リ。とモ
遂ニ小こ死ス。頰ノものヲあり。之ヲをク藥ヲ劑ノのニ小こ治スんトをオとしべ。決シ
く救フことヲ得ルべシらば。此ノ如キ火ノ急ニ小こ發スるハとモるコトあり。證ヲを
としべ。俗ノ家ノ小こもハ平ニ素ニ記ス得ル。其ノ變ニ小こ應ニをオとしべ。此ノ證ヲ産後
小ノのニ限カむコト常ノ月ノ信ノ時ノ小こもマあらんト有リ。之ヲをス救フの術
もハ其ノ婦ノ人ヲをヨ側ニ臥ス小こさせ。下ノ小こをアりテ脚ヲをハ伸ビ膝ノ下ノ小こ褥子や
りノ物ヲをオ疊テあておひ。上ノ小こをアりタる脚をカ屈ス。臀ノ肉ヲをリ雙ニ手ノ小

てあると按て。頃時動揺ことある也。かくを色バ。陰戸闕て血の
 泄下べた道を壅遏その間小。子藏中の破裂細脉漸小愈て自然
 小止ものあり。かくくも陰戸閉るさくおほゆるものも。繭綿
 を大さ團炭のごとく小束く。陰中へ深送入る。その後側卧小
 て。腎肉端と按べし。綿を意外小多く實もの小て。いさゝあ小て
 ら益ある。且木綿をわくく。必繭綿を用ることと思べし。もし昏
 眩を帯ものも。左手も腎右手も肋端不容の部と按こと。眩運の
 條下小述のごとし。そ色と兩人小く作もよし。まゝ冷醋を喫し
 め。或も口鼻へ沃るけ。あるひも塗もよし。病勢劇熱あり動悸甚
 小る。冷水を服しぬ。水を頭面小噴かど尤捷効あり。その奇驗あ

山崩漏を
 救ふ
 圖



側小のひものとし。
 腎肉を強按て。陰戸の閉ゆるめ
 くるところを本文と参互て
 よく視べし。

崩漏と冒眩を

併發したるを

救ふた

本文もこの圖も左手ハ腎

右手ハ胸下を按ことと

記さしとも左右とも時め

宜小從こと、思べし



る。陰門中を冷水ヒヤシツ小く洗アラところのツ術あり。とせふる小兒の
弄具モテアソビモノ小竹を以て造ツクリする水銃あり。まと外科ケウカク小く金創キリキスを前小用
るル鑰銅キンチウの唧筒シツハダキあり。ことせらふ冷水ヒヤを陰戸マヘノウチ中へ頻小シバシバ彈射ハダキユムこと
尤モトモト妙あり。手術シユジユ右の圖エを細覽トクシて參攷カンカフべし。惣スベて久漏血ナガガクの婦人
も。寢イふ必この用意ヨウイ小く。陰戸マヘの密閉トゲアフやうふして卧フスべしこと
あり。はと胞衣ノチサンの子藏口コツボノクチへ澁滯ハナマリ。崩漏チキシルの止やめたさものあり。そ
の胞衣ノチサンを頓小スミカ下オロスことと坐婆トリヤババの術ワザあり。坐婆トリヤババもし心得ココロエなくハ疾
乳サンクワ鑿ワツシヤの高手カウシヤあるものを招マテべし。たつてをやく鉤ヒキイタヒ去ハる。あとへ繭
綿ワタを送實カイて。側卧ヨコガシ小さをるまづのことをさぞもこ、るえなく
てらあらく施ふたらんことあり。

胞衣エナオリ下オリさると死シの心得ココロをよく

児コ落地レイダて。次ツギに胞衣エナオリの下オリるも順ジユンをとも。若モレ子藏コツボ口ノ孳ヒキ縮レメで。速スミチ小
下オリ來キタさる時トキも。衝ツク逆サカ昏眩コンケンを致イタす。之コレをタメ爲イシ小命コノイナを殞オシことあり。こは
世間セケンの醫者イシヤも。胞衣エナオリの唐突ノボリく心ココロを衝ツクものともとも。是コレ大オホを
差誤サマリあり。子藏コツボ小コ子藏コツボの位置チノジ定サダメあり。いのちと孳ヒキ急キツメルとも。
其部ソノトコロを離腸胃ハラワタを排オシす。逆サカて衝撞ツクワレをとも能ナラぬもの也。こと小
分免コツボ後の胞衣エナオリも。子藏コツボ中ノ小蛻ヌグ棄ステたる寒物フヨクモノあり。何ナニの勢力イキホヒあり。く
の上ウヘ迫オソことのあるべし。然シカレをいハる。昔ムカシより。産後サンゴの胞衣エナオリ
下オリさるものを。醫俗イシヤとも小巨患イナダイをとも。たると小旁人ソノバノヒトの倉クラ
皇失措テウシツクのともとあらば。産婦サンブも胞衣エナオリ下オリさる小焦心コノコトシて。已オシに死生シシをとこ

の一イチ舉キ小在オシと慮オモふ故ユエ小氣逆キヤク甚シく。その餘響ヒヨウを子藏コツボ小及オホで。大オホ
孳ヒキ急キツメルをとも。諸藏ハラワタ上ウヘ迫オソて。卒暴ソツボウ小死シを致イタす。免身コツボ後ノチこの胞衣エナオリ
も。人身コノミナ中ノ小於オシく長物ムヨウモノあるゆゆゆ小。暫時レバ子藏コツボ中ノ小寄託オシと雖元イナ
氣幹キカ旋セン必カナラくともあることを厭イヒて。排擠ハヒんと思オモふ自然シゼンの妙ミセをとも。
産婦サンブの心神ココロ穏平オシく。懸引ケンイン衝逆ツクサカことともとも。決ケツく害ガイをとも。
こととも。胞衣エナオリもそのま、小子藏コツボ中ノ小糜爛タバンて自下オシものあり。
暑天アツサの頃トキも尤腐敗トククサレやとも。五七日イツシツを過スギびて下オリものあり。故ユエ小
胞衣エナオリいハる小くも下オリがとも。強シビて之コレを下オリんととも。小及オシ
べ。た。産婦サンブの心ココロを安慰オシくこととも。最オシくして。或オシ下オリたる塊血クハクを胞衣エナオリ
衣エナオリもとも。婦小視メシせしめ。其心ココロ降オシく倦睡クヱンスイを催モトやう小をべし。断キ

たる臍帯あらば。その物を戴く視せしむるも可。尤旁人ふも戒
る。發漏をのらむべし。如此を色ハ其産婦の志氣必平穩小
ま。子藏の撃急をなれものなれば。胞衣下はさる。決して死ぬ
ることなれことあり。も一胞衣下を子藏を窒礙く。残血の下
ぬものあり。赤色をそのま、小坐視おたれものなれば。帶下鑿
の收生媪の高手あるものを招て。過小抽去しむべし。赤のほど
を産婦の大小虚憊たる。胞衣を暴小下て死ことま、あるも。
車小處さるもの、過小し。尊鑿生媪の恥をさることありと
知べし。ま一婦産後の胞衣既小下たりと思ふ。寢食常小復て
の後偶近處へ適ことありし。運歩何の苦勞もなれ。留款移

時て。廁小登し。小腹裏微痛ことを知く。陰戸より下りたる
物あるを異て。よく看色ハ胞衣あり。大小驚駭をのらも。自曳出
る。潜小棄たり。さる家小歸る母小かく告小。其母習車たる老
媪小て。前小胞衣の下を祢し。も一懊惱し。氣逆もやせんと
慮へ。胎児とも小下たりと詔て過せしと應よりし。時過
る自然小下るものなれば。見聞せること多けきども。こ色ハ産
後月を閱。他行さへ爲まで。胞衣をほ子藏裏小ありし。一奇事
あり。こ色ら小ても胞衣の下さる。頃小命を殞不との患を死
ことを審知をべし。然を俗輩のなれば。坐婆も鑿工も。胞衣の
下さると一大厄と思こと。の構味より。世間の婦人こ色かため

小氣死キシニまること幾イタクをや。このおとの慘怛イタマシキ小より。予オノの老婆オヤジメ心を
 廣人ヒロク小告ヒコて。横天ヒゴラの寡人スネモノことを欲チカフものあり。

病家須知卷之四終

病家須知 一名病家くらしえき
きりあげむらぬま 一名坐婆必研
四冊に分けて前後二編とん

全六冊
 全二冊

擇善居主人著

水療俗辯

中本 二冊

灌水浴水服水等惣く水を用て
 病治まる試験考證を國字
 を以て詳小記と俗家小論以既濟
 微言中の抄録和解なり

今大路道三法印述

翠竹菴養生物語

擇善居贅言

一冊

長田徳本翁著

知足齋醫鈔

十九方原本及
 極秘方合刺
 擇善居附言

一冊

長田徳本翁真蹟

知足齋醫辯

擇善居附言

一冊

擇善居主人述

醫道麓の蘆

醫學の用心取捨を詳小
 論と後進の醫生小言と以
 初篇より二冊刊行

京師寺町通松原下 勝村治右衛門

大阪心齋橋筋安堂寺町 秋田屋太右衛門

江戸芝神明前 岡田屋嘉七

浅草茅町二丁目 須原屋伊三郎

日本橋通二丁目 小林新兵衛

日本橋通二丁目 須原屋茂兵衛

發兌書肆

三
 五
 九



